

荒川大崩壊地からの土砂を調節

仏像構造線(中央構造線に沿うように連なる断層)の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため、高さ28m、堤長122.5m、計画貯砂量121万 m^3 の砂防ダムとしては大規模なダムが1984(昭和59)年に完成した。基礎岩盤が深いため堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。



小波川源流の莫大な流出土砂を止める七釜砂防堰堤

ダムサイトの
地質的特徴

ダムサイト付近は、河床砂礫層が厚く、基礎岩盤が深い。基礎岩盤が深い場合には、これに対処するための基礎工法は大がかりなものとなるため、できるだけ経済的な工法を用いるよう設計された。

ケーソン工法
とは

水中や軟弱地盤に大きな構造物を作る場合、鉄筋コンクリートなどで筒または箱(ケーソンcaisson)状の構造物を作り地中に埋めて基礎とする工法。

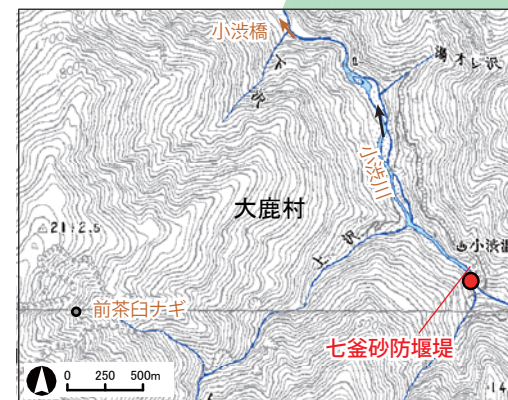
information

□ アクセス

松川川ICから30km
車で1時間
車止めから2km
徒歩→30分

□ 所在地

大鹿村大河原



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)